

審議会の概要	
名 称	令和7年度 第1回向日市地域福祉計画策定・推進委員会
日 時	令和7年7月29日（火）午後2時から3時30分まで
場 所	永守重信市民会館 2階 第2会議室
参 加 者	（委員）石井委員、橋本委員、山本委員、籠谷委員、佐野委員、亀山委員、前坂委員、芦谷委員、村上委員、石田委員、麿嶋委員
	（幹事）柴田、伊藤、紺野、大野、岩谷、藤野、沢合、田口
	（事務局）岩尾、清水
	（オブザーバー）向日市社会福祉協議会事務局長、総括次長
議 長	石井委員長
傍 聴 人	なし
議 事	
1	開 会
2	委員の紹介
3	議 事
	（1） 委員長の選任 向日市地域福祉計画策定・推進委員会設置要綱第5条に基づき、石井委員を委員長に選任。 （2） 副委員長の指名 委員長が委員会の同意を得て副委員長に籠谷委員を指名。 （3） 会議の公開について 会議録の要旨作成と公開について、委員会で承認。 会議の傍聴者なし。 （4） 計画の概要とスケジュール 事務局から計画の概要と今後のスケジュールについて説明。 【主な意見等】 （委 員） 高齢者は社協と市役所の区別がついていない。高齢者からしたら同じ組織とされている。 （委 員） 先ほどの委員の意見について自分自身も感じたことがある。高齢者に介護保険は民生委員に相談するのか？と聞かれたことがある。どこに相談していいかわからず不安に思っている方はたくさんいると思う。 （委 員） 民生委員なのか、高齢介護課なのか、ケアマネジャーなのか、誰に相談したらいいかわからない。最初に相談する場所が不明。 （委 員） 向日市では、子どものことは市役所に子ども家庭課などがあるが、高齢者は高齢介護課や地域包括支援センターなど窓口が多くわかりづらい。 直接、担当課に連絡するだけでなく、ここに電話すればある程度話を聞

いてくれて、どうしても専門的な説明が必要な場合は、担当につなげるといった総合窓口があった方が市民は安心する。

(事務局) 後ほどアンケートの回答内容にも出てくるが、窓口がわからないとの意見がある。いい意味で専門的に分担できているところもあるが、委員みなさまのご意見にあるとおり、相談窓口を作ることや窓口の周知について、この計画の中で検討していただきたい。

(委員) 高齢者から市役所の職員は怖いと言われる。人員不足で人が少なくて忙しいので、説明が早口になっており、それが高齢者に不安感を与えている。人を増やしてあげるのが解決策。

(委員) 人が少ないと言うことですが、向日市はケアマネを外部に委託していると聞いたことがある。福知山市の人が担当になったと聞いたことがある。

(委員) アリーナに予算を積んで、福祉にお金を積んでいないという意見がある。実際には福祉にも力を入れていることをアピールしてもらいたい。

隣の長岡京市は京都市と同じ等級になったが、向日市は地域等級は上がらないのか。給料が他と一緒にしないと人材確保は難しいのではないかな。

現在2歳と0歳の育児をしている。夏は暑くて外で遊ぶことができない。長岡京市のジャブジャブ池や亀岡市の施設などの夏でも遊べる場所があるとうれしい。

(5) アンケート結果の概要について

事務局からアンケート結果の概要について説明。

【主な意見等】

(委員) アンケートでは相談先が家族や友達の割合が多いが、独居の方は相談先が少なく、困る方が多いと思う。専門窓口もあるとは思いますが、認知度向上のためのお知らせが必要かもしれない。社協を知っていただくにはどうすればいいのかな等についても、今後の計画策定にあたり重要な部分かと思う。

(委員) 自殺関係について、例えば、ハラスメントやいじめ対策等もこの中に関わってくるのか。また、誰が担っていくのかという考えはあるのか。

(事務局) 自殺対策について、自治体がどう対策していくか難しい部分もある。個々の事案には様々な背景があるので、困ったときに相談できる窓口を知らないことが問題。こういうことに困ったらこの相談窓口というわかりやすいものがあればいいと思う。そこを周知していくことも重要。

(委員) 縦割りではなく、横の連携が重要になるが、そこは行政主導か民間主導かなど難しい部分が多いと思う。

(事務局) 委員がおっしゃるとおり、行政の得意分野、社協の得意分野がそれぞれあるので、そこを振り分けるだけではなく、相互に協力していく素地をこの計画に盛り込んでいければと考えている。

(委 員) 自治会がない地域は実際あるのか。

(事務局) 新興住宅などは自治会がないところもある。若い世代の中には自治会加入のメリットを感じないという理由から、加入しない人が多くなった。大規模マンションは管理組合が加入していたりするところもある。

(委 員) どこに相談したらいいのかわからないのが1番大変。110番みたいに電話したらつながるみたいな、わかりやすいものが良いと思う。

(委 員) ボランティアについて、私は30年ずっとやっているが、定年が60歳の時代は定年後の人たちにも時間や余裕があった。今の60代の方は仕事やパートをしていて、ボランティアをする時間がない

(委 員) ボランティア活動は社会を反映するといえる。昔は専業主婦の方や退職後にボランティア活動をしている方が多かった。今の60代は孫の面倒をみたいけど、年金だけでは生活が厳しく、シルバー人材センターで勤めたりパートをしている人が多いのではないかと。ライフスタイル全体が変わってきている。

(委 員) 11 ページ問 11、社協については、自治会や区に会費を集めてもらっている。どんどん自治会がなくなってきており、社協の会費についても20年ほど前がピークでそこから減ってきている。こういった面からも自治会の加入率が下がってきていることを実感している。

問 25 の手助けをしてほしいかの回答で、災害時の手助けが回答として1番多い。社協は令和 5 年度から毎年 2 つの行政区で災害ボランティアの養成講座を実施している。防災に関するテーマは、地域の方の関心が高い。

(委 員) 防災がいい手になると思う。防災訓練も自治会加入者を対象としてしかやっていない。自治会加入の有無にかかわらず防災訓練をやったら参加者はいっぱい来ると思う。

(委 員) 対象者別に縦割りになっている制度がほとんどだと思う。地域福祉のエリア(対象・範囲)をどう考えるかが重要。エリアがあるからいい場合と、エリアがあるから難しい部分と両方あると思う。エリアをどのように捉え直すのかがいいかという部分が、地域福祉で重要なテーマとなっている。新たな形を作りあげているところも、全国で出てきている。

(委 員) 障害者協会も人数が減ってきている。60歳くらいになったら障害者協会に入るよりも、デイサービスの方が送り迎えがあるとかで、会員が全然増えないと悩んでいる。

(委 員) ボランティアもやりたいと思うが、1度入ったら出られないのではないかと。ボランティアを今の若い人に知ってもらうために、タイミーの隙間バイトみたいに、今日こんなボランティアがあるとかがわかれば、参加したい人は多いかもしれない。関心をもってもらう数を増やすのがいいと思う。

(委 員) ゴミ出しのボランティアなどは1度ご依頼したらずっとしてもらって

る。先ほどのご意見は負担軽減の観点でも重要かと思う。

(委員) 高齢者の話で、遠方のケアマネジャーの話があったが、人員不足になっていることは確か。福知山市ではないが、亀岡市のケアマネジャーに相談している実績はある。今後、単身世帯がもっと増える。自分の将来をどう描くのかを学ぶ機会を設けることは大事。認知症サポーター養成講座は小学生でも勉強する。

(委員) 障がい者の方は、近所づきあいに苦手意識を持っている人が多い。町内会の役回りが回ってくるのは避けて、自治会に入らない方が多い。今年は暑さの影響で、子どもが外に出られないことが原因となり、親子ともにストレスがたまっているという相談もある。

防災の不安についても、だれに頼ったらいいかと心配されている方がいる。どこに相談すればいいかわかりやすい窓口があれば安心する人も多い。

(委員) 大きな7番の自殺について、最近は小学生くらいからもひきこもりが多いらしい。自分に自信がなくなってきた最悪の場合、自殺につながることもあると思う。

(事務局) 高齢者の居場所づくりは進んできた。これからは子どもの居場所づくりが重要だと考えている。これまで生活困窮家庭に対する学習支援として行ってきたが、令和7年度から新たに条件を取り払って参加できるように取り組んでいる。こういった取り組みをうまく周知できるように、計画にのせていければいいと思う。

(委員) 自殺について、ゲートキーパーをネットで調べたら、資格はいらないとのことであった。自殺だけでなく、認知症も同じで根本は聞いてあげることが重要。

(6) その他

事務局から次回の会議日程等について説明。